

サポートオフィスでは来年度もみなさまの活動を応援するイベントや催しを企画しています。「こんなテーマのイベントがあるといいな」というアイデアがあれば、ぜひサポートオフィスまでご連絡ください。



3/30 (土)
18:00~20:00

能登半島地震支援チャリティー 上映会&お話し会 in町田

上映料無料

詳細
ご予約



[会場] みなさんの居場所ぼくはぼく(木曾東1-24-14)



前ページで特集した「寄付」の一つの方法でもあるチャリティー上映会をサポートオフィスでも企画しました。令和6年能登半島地震の支援を目的として、ドキュメンタリー映画「ひとにぎりの塩」を上映します。上映後は町田の市民活動として何が出来るだろうということ、映画の感想も交えながらお話しする時間を取りたいと思います。

上映料は無料ですが、皆さまからのお気持ちを能登半島地震に係る災害義援金寄付にお届けします。

中学生によるチャリティーレモネードスタンドもあります!

4/4 (木)

まちだづくり応援基金説明会

参加費無料

詳細
ご予約



[会場] 町田市役所2階 市民協働おうえんルーム
[時間] ①10:00-11:00 / ②15:00-16:00

町田市内で活動する方を応援したいという想いを持った方からの寄付により、4月1日にまちだづくり応援基金を開設することになりました。町田市のまちをよくする志をもった個人、団体の「新しいチャレンジ」にあたる取り組みに対して1件最大5万円(10/10補助)※を助成します。この日は本プログラムの詳細や応募要件を詳しくお伝えします。新しいイベントや企画を考えている方、助成額の大きなプログラムへの応募は難しいが、資金を得ることで今までできなかった活動をしてみようと思っている方、ぜひお越しください。※助成額は、選考委員会を経て決定します。



まちだづくり応援基金の目的

志を応援しあうまちにする

町田で活動する方、町田で暮らす方、町田に想いのある方が、町田市内でまちづくりに取り組む個人、団体のチャレンジを応援し、志を応援しあえるまちにする。

小さなチャレンジを後押しする

小さくても新しいユニークなチャレンジをする人を後押しする。新しいチャレンジだからこそその失敗も歓迎し、失敗からも学び合えるまちにする。



応募要件

①、②、③のすべての要件と④、⑤のいずれかの要件をそれぞれ満たすこと

- ①町田市内で実施される活動であること(実施主体の所在地は問いません)
- ②広く市民に開かれた活動であること
- ③新たなチャレンジ、または既存の活動を発展させたチャレンジであること
- ④サポートオフィス主催「まちだづくりカレッジ」(わたし×困りごと=地域ではじめる小さなことづくりセミナー含む)の受講実績があるもしくは助成金応募年度に受講予定(全回参加)である
- ⑤助成金応募年度の町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ!」に参加(企画実施)する

一般財団法人町田市地域活動サポートオフィス

info@machida-support.or.jp

042-785-4871 月~金 午前9時から午後6時 (毎月第三水曜日は午後5時まで)

〒194-0013 東京都町田市原町田4丁目9-8 町田市民フォーラム4階

●JR横浜線町田駅から(徒歩約5分) 小田急線町田駅から(徒歩約8分)

●お車で越しの場合は近隣の駐車場をご利用ください

相談
無料

事前
予約制

公式SNS 更新中



www.machida-support.or.jp

Now

みんなの経験共有会vol.15を
開催しました

Topics

地域活動団体の事例から探る
活動の幅を広げる寄付

Information

これから開催するイベント情報

左から清水静香さん(介護福祉士)、荒川和子さん(看護師)、柳原順子さん(看護師・社会福祉士)、津川博美さん(助産師・看護師・社会福祉士)。カッコ内は所有している資格。撮影:北村友宏氏



みんなの経験共有会では、最後にゲストの方からメッセージを掲げていただき、クロージングとしています。

今回の一言

あなたにとって専門性を
生かして地域活動をするとは?



清水さん

Win-Winのつながりづくり

地域活動は、どちらかが犠牲になる形だと続かないので、得意なことや好きなことを地域でやって相手に褒められたり感謝されたりするのいいですね。好きなことを地域に還元すると地域にもつながれます。



柳原さん

「発見」と「統合」

地域に出ると発見がたくさんあり、自分の経験とつながり自分には見えないものが見えてくる。それを地域に還元することで、自分にも地域にもいい循環が生まれると思います。



津川さん

幅広い知識で暮らしを支える

自分の専門性を生かして地域で活動していくことです。

経験共有会の開催レポートは
こちらをご覧ください。



次回の経験共有会開催は3月21日(木)

～専門性を生かして
地域活動やってみて! 第2弾
「保育・教育編」



会場としてお借りしたのは、薬師台メディカルTERRACE。「医療 × 治療 × 介護 × 歯科 × 薬 × みどり」の全てが繋がる医療モールです。植物が持つ自然のチカラで人と地域を健康にする「まちにわプロジェクト」、感じることをそのままに育める知恵に出会う「ちえのわプロジェクト」も始動中。

www.machiniwa-mmg.com/



Topics 特集

地域活動団体の事例から探る **活動の幅を広げる寄付**

能登半島地震の発生に伴い、全国で寄付活動が活発に行われています。町田市役所や社会福祉協議会をはじめ、市内でもさまざまな場所で寄付を受け付けています。寄付は今回のような災害があった時によく耳にしますが、地域活動団体にとっては上手に活用したい資金調達手段の一つです。また、自団体の活動や取り組んでいる社会課題を広く知ってもらったり、活動する仲間や思いを分かち合う人を増やしたりする機会にもなるものです。

今回の特集では「地域活動における寄付」をテーマに、知っておきたい寄付についてのトピックスと共に、実際に寄付活動を行った市内の事例から寄付活動のヒントを探ってみたいと思います。



TOPICS 01 **そもそも寄付とは？**

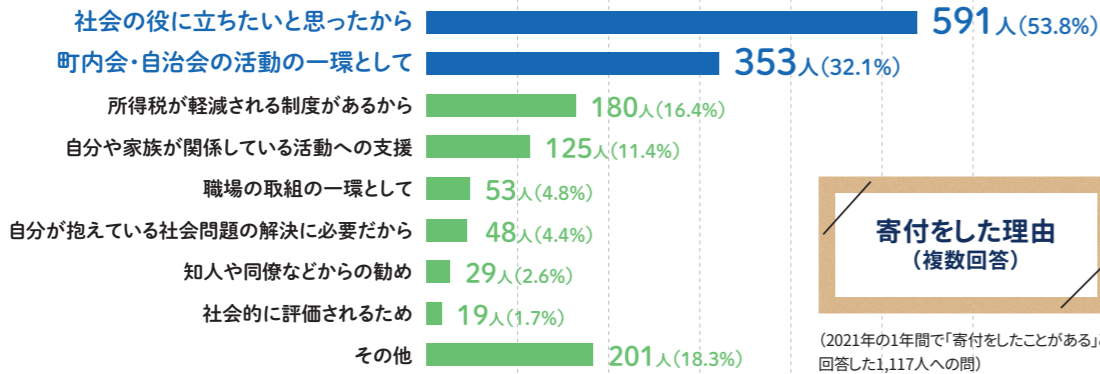
寄付と聞くと、お金を支払うイメージを持つ方が多いのではないのでしょうか。実はお金以外にも、物品や人手などさまざまなものを寄付できます。またNPOにおける(会費)は活動を進めるうえで大事な資源ですが、これも「この団体の活動は社会に必要なから応援したい」という想いから支払われるもので、広義の意味での寄付ととらえることができます。

- 主な寄付の種類**
- 金銭の寄付(募金・会費・遺贈等)
 - 物品の寄付
(フードドライブ/筆記用具/書籍/書籍/古切手/衣類等)
 - ふるさと納税
 - 寄付型クラウドファンディング
 - クレジットカード等のポイント

TOPICS 02 **日本の寄付の実態**

日本ファンドレイジング協会の発表によると(※2)、2022年度の日本の個人寄付推計総額は約1兆2,000億円と10年前の2.5倍になり、日本人の約4.5割は何らかの寄付を行っています。震災やコロナ禍を経て助け合いの認識が高まったことやインターネットの普及により寄付の方法が多様化し、個人でも参加しやすいクラウドファンディング等のサービスが増加したことがその理由として考えられます。

内閣府の調査(※3)によると、寄付をしたことがあると回答した人の理由として、「社会の役に立ちたいから」が53.8%、次いで「町内会・自治会の活動の一環として」が32.1%となっており、社会活動や社会課題解決への貢献への意識が高まっていることがわかります。



寄付をした理由
(複数回答)

(2021年の1年間で「寄付をしたことがある」と回答した1,117人への問)

※2 2022年サマミ-日本の寄付市場予測-日本における寄付の可能性を読み解く5つの視点-
※3 令和4年度 市民の社会貢献に関する実態調査/内閣府

TOPICS 03 **町田市内のNPO法人の寄付・会費の実態**

2024年2月末日時点で、市内のNPO法人数は192法人(東京都生活文化スポーツ局NPO法人ポータルサイト)。各法人が発表している事業計画書には年間寄付額と会費が記載されています。数値を見ると市内のNPO法人が寄付、会費等の支援的資金で約1億7,000万円集めていることがわかります(ただし、寄付の中央値が0円なので、集めている団体が多額に集めていると思われる)。

内閣府の調査(※3)では、寄付者が必要とする情報は、「寄付先の活動内容」や「寄付で期待される効果」が上位に挙げられています。多くの人に寄付への関心を寄せてもらうには、活動状況やその成果等をタイムリーに公開することが団体にとっては大切ですね。

	中央値	平均値	最大値
受け取り会費額	19,000円	314,769円	29,387,000円
受け取り寄付額	0円	596,947円	24,464,052円

※4 サポートオフィス調べ(事業計画書内の数値は、閲覧書類の中で最新年度のものから選定)

CASE STUDY 寄付を行った2団体の事例

CASE 1 **寄付型クラウドファンディングで活動資金を調達**

お話を聞いた団体 **子ども食堂せかい**
小山町で地域の子育て中のお母さんたちが運営している子ども食堂。「夢チケット」を利用して子どもが無料で食事がとれる仕組みを導入している。



Q1 寄付実施のきっかけ

同じ場所で営業している(すーぶやSEKAI)から家賃や光熱費を無償提供してもらっていました。その店主の入院で店舗が休業することに。そのことで子ども食堂が単体で運営資金を集める必要があったことがきっかけです。

Q2 実際に行った寄付活動

非営利団体に特化した寄付のプラットフォームSyncable(シンカブル)というサイトでクラウドファンディングに挑戦しました。第1目標を30万円としていましたが、結果的に624,975円(その他現金での寄付92,000円)と目標を上回る沢山の応援を頂きました。

Q3 寄付実施のために準備したこと/すべきだったこと

Syncableのページ作成やいろいろな方へ会いに行く等、さまざまな準備がありましたが、今振り返って**一番大切だったと感じる準備は「この寄付を通じて皆さんに応援をしてもらいながら活動を続けていく」と運営スタッフ全員が決意したこと**です。

Q4 寄付活動のヒント

寄付のお願いをする際は、申し訳ない気持ちではなく、**自分の活動をもっと知ってもらい応援してもらいたいという気持ちで自信を持って前向きに取り組むのがおすすめです**。新たに活動を知ってくれた方も増えました。



CASE 2 **街頭募金で活動内容のPRと活動資金調達**

お話を聞いた団体 **ワン&オンリーいのちの会東京・町田**
1口1円「円プリオ基金」でお腹の赤ちゃんの誕生を支援し、安心して産むことができる社会の実現を目指し、募金活動や講演会・勉強会・相談事業等を行っている。



Q1 寄付実施のきっかけ

一人ひとりの命が大切にされ、一人でも多くの赤ちゃんが生まれる社会が作れるようにと日々活動しています。自分たちのこの活動を多くの方に知ってもらいたいと思ったのがきっかけです。

Q2 実際に行った寄付活動

通常は、家庭や薬局などの店舗、公共施設等で募金箱を置いて寄付をお願いしていましたが、**さらに多くの方との接点を作りたく**、生命尊重の日である7月13日に町田駅周辺での街頭募金を実施しました。

Q3 寄付実施のために準備したこと/すべきだったこと

街頭募金をする際、道路使用許可申請書(町田警察署)に会則、活動内容がわかる印刷物等を用意する必要がありました。メンバーと募金をする場所を地図で調べ申請しました。現場の下見をしておくといいですよ。

Q4 寄付活動のヒント

最初は街中で大きな声を出すのは恥ずかしかったのですが、女子高校生が貯めていた1円玉を赤ちゃんのためにと全部寄付してくれたり、友人が妊娠中なのでと男性や年配の方なども募金に協力してくれたりして**自信が生まれました**。直接**自分の言葉で活動を伝えたことでメンバーの意識が高まり、結末も強まりました**。

